

7 1. シラウオ船曳網による海産稚アユの混獲状況について

福島県内水面水産試験場調査部・平成10～11年度事業報告

- 1 部門名 水産業－内水面（増養殖）－アユ 分類コード 19－08－59000000
- 2 担当者 尾形康夫
- 3 要 旨

海域に生息するアユの分布及び資源状況をシラウオ船曳網での混獲状況から推定した結果、福島県沿岸域の分布、成長及び当該漁業による混獲規模が明らかになった。

- (1) 水深別混獲状況：水深9m以浅の水域で500尾／回以上の混獲が見られ、より浅い水深ほど尾数が多い傾向が認められ、混獲された最も沖合の地点は水深15m海域であった。
- (2) 水域別混獲状況：ロラン別の混獲尾数には大きな違いが見られ、天然遡上の良い河川付近の海域での混獲が多い傾向が認められた。
- (3) 月別混獲状況：2ヶ年ともほぼ同じ月別の混獲状況を示し、総混獲尾数の約7割強の尾数が1月に、2割程度が2月に、1%前後が3月に混獲され、稚アユが成長するにしたがって混獲尾数が大幅に減少した。
- (4) 稚アユの成長：平成10年12月から平成11年3月の成長は前年に較べ1月下旬以降大きく上回り、3月下旬には平均体重、最大体重とも約3倍前後の値を示し、この年の海域生活期の稚アユの成長が順調であったことが窺われ、その原因の一つに漁場水温の影響が考えられた。
- (5) 混獲尾数の推定：漁獲されたシラウオ1kg当たりの稚アユ混獲尾数から、県内の稚アユ混獲尾数を推定すると平成10年1月から3月までの期間で約61万尾、平成10年12月から平成11年3月までの期間で約70万尾で、ほぼ同じ値を示し、沿岸の内水面漁協が懸念している河川遡上アユへの重大な影響を及ぼす程の大量混獲とは判断されない状況であった。